

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390800102		
法人名	社会福祉法人 菊寿会		
事業所名	グループホーム 明日葉		
所在地	熊本県 山鹿市 菊鹿町 長 529番地		
自己評価作成日	平成28年10月20日	評価結果市町村受理日	平成29年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成27年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな山間の自然あふれるなか、木造平屋建ての環境にやさしい「地中熱」を取り入れた住まいである。また、建物の周りには、栗園があり小鳥のさえずりも聞かれ、自然を満喫できる環境である。地域や地域住民との交流も定着しており、地域の中で住み慣れた生活を送られている。利用者のご家族とも信頼関係も深まり、ご利用者と一緒にも楽しめるような企画を実施している。ご利用者が自然の環境の中で、ゆったりと楽しく暮らして頂けるような雰囲気づくりを心がけて支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

『緑豊かな自然の環境と地中の熱を利用した優しい家』を掲げたホームは、開設時より理念の中に“私も、あなたも、地域の中で輝いて暮らしたい！”という文言を盛り込み、一人ひとりの入居者に応じた時間の提供に努めている。経年と共に高齢化や重度化の現状の中、協力医療機関や法人の協力を得ながら本人や家族の思いを大切に職員は雇用体制に関わらず、得意を活かしながらチームワークを持って取り組んでいる。また、地域との連携は外出の機会を後押ししたり、災害対策の強化・見直しなどにも繋がっている。『明日葉農園』は、家族の協力や支えにより土の耕しから種まき、成長に合わせた手入れが行われ葉物野菜が高騰の時期にあっても野菜の並ぶ食卓が提供されており、盛り付けをはじめ一工夫された家庭的な日々の食事支援もホームの大きな特徴である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は母体の理念と共に明日葉ホールに掲示している。また、明日葉の理念は、開設当時より、スタッフのロッカーに貼り、この理念に基づきそれに沿った支援を行っている。	『自分らしく生きたい利用者と、支える職員はあなたの笑顔が私の幸せ、地域の中で共に輝いて暮らしたい！！』という、率直な思いをホーム理念としている。また、パンフレットにも法人理念と共に記入し、家族や関係者への周知に繋げている。また、管理者は理念に沿ったケアと、地域への感謝を忘れず業務にあたることを会議など機会あるごとに伝えている。	管理者・ホーム長は「今年は理念を通して、どれだけ地域に行くことができたか！」振り返る機会を持つまでは至っていないと語っている。今後はホーム全体に限らず、理念の実践について職員一人ひとりの振り返りも必要と思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の収穫祭に手作りおやつを出品し収益は地域に活用して頂いている。2ヶ月に1回の交流会には、近隣地区より参加して頂いている。地区の美化作業にも参加している。	地域と共に生き、歩み、信頼されるホームを目指すホームは、サロンや清掃活動へも2名程の職員が参加し交流も図りながら可能な貢献について模索している。恒例となった地域収穫祭では、今年も職員が腕を振るい(クッキー・ドーナツ)100個程完成し、好評であったことがまた、次回の励みとなっている。ホームの立地面から近隣者との日常的な交流は困難であるが、地域とのつながりの重要性を全職員が持ち、ホーム運営が行われている。	今後も本体のデイサービスなどとも協力しながら、地域交流、出来る貢献に努めたいとしている。取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地域のサロンや菊鹿中学校において認知症の症状や対応の仕方について、またリズム体操や口腔体操を紹介する事を計画実施している。(介護相談窓口、福祉用具についての紹介)	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見や助言を頂いたら、スタッフに報告し利用者が過ごし易い環境に繋げている。地域の方の意見を多く聞き入れる為に民生委員様3名、認知症サポーター様3名に参加して頂き、今年は菊鹿駐在署の方にも参加して頂いている。	2ヶ月ごとの定期開催が実現しており、活動報告のあと参加者より意見や提案の場を設けている。本年は駐在所からの参加もあり、事件や事故などについて報告や意見交換が行われている。今回の熊本地震についても、法人が福祉避難所として対応したことやホームの当時の状況が報告されている。また、他県の台風被害などから、行政より指導があったことや災害マニュアルの提出を行ったことなどを報告している。	会議はリビングホールを会場としており、日常の雰囲気を目の当たりにしながら有意義に開催されていることが聞き取りや記録物からも確認された。家族は代表者のみが参加しているが、今後は他の家族へも声かけを行い、幅広い意見を収集する場としていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市開催の説明会に参加して、市の計画や意見を聞いている。ケアプランを提出し助言を頂いている。また、運営推進会議にも毎回出席して頂いている。	運営推進会議にも毎回参加が得られており、ホームの現状を伝えながら協力関係を築いている。また、ケアプラン提出時に助言を受けたり、今年度はホームの更新に伴う書類作成で指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設外研修に参加の機会はなかったが、毎月母体での身体抑制廃止委員会にて「絶対拘束はしない」を各部署と確認している。特に言葉による抑制には、スタッフ全員で、日々注意をはらっている。	法人の身体拘束委員会により、拘束のないケアの実践について周知徹底が図られ、ホーム内でも「利用者が一番」を合言葉に日々のケアにあたっている。拘束や虐待などの報道があった時は、職員間で自然にその話題となり、あらためて拘束のもたらず弊害や、職員が声かけ合い、助け合い仕事をしていくことを確認している。	現在安全管理の面から使用している6名の方のセンサーマットについては、全家族への説明と今後も定期的な経過報告が必要と思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフのストレスにより、虐待等が起こらないように、日々スタッフの健康状態や精神に悩みがないか心のケアをこころがけている。また、ストレスケアの全体研修を法人としてもとりくんでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所者に後見人制度を受けられている方が1名。本年度は、研修の機会はなかったが、権利擁護の研修を受けた職員からの研修を受けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書と契約書について説明を行い質問を受けているが、説明後も再度、疑問がないか時間をとり聞いている。納得された事を確認して同意をお願いしている。入居時リスク説明書を作成し説明、納得された事を確認して同意をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年は熊本地震や施設の都合により家族会が出来なかった為、敬老式典後に個別にお話を伺った。また日頃の面会の折にご家族の意向やケアの在り方等の説明をしている。	入居者の意見は普段接する中で確認している。意思疎通の状況は様々であり、賑やかな会話の中や1対1になる入浴中など個々に応じて聞き取っている。家族については面会時を中心に、近況を報告した後、意見や気づかれた点などないか聞いている。遠方より定期的に面会される家族もあり、職員は笑顔で迎え入れゆっくりとした時間になるよう心がけている。外部の相談窓口についても、入居時に書面をもとに説明を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全スタッフの会議で意見や提案を聞いているが、緊急な場合は、ミニ会議を行い、申し送りノートにより全スタッフに報告し実践に活かしている。	スタッフ会議や緊急時に開催するミニ会議の中で職員の意見や提案を確認しサービスに反映させている。また、申し送りノートもその手段であり、職員が活用できるような工夫を行っている。ホーム長は日々職員とコミュニケーションを図り、管理者と連携しながら働きやすい職場環境に努めており、現在療養中の職員も安心して休むことができるよう、調理専任者の採用に至っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を取り入れており、年2回(上期、下期)個別面接を行い、本人の意欲(目標)の達成感等を聞いたり助言を行っている。また、業務がスムーズにいくように就業時間の見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体施設の内部研修には、毎月参加している。外部研修は、グループホームの勉強会に参加しスタッフのスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	菊池山鹿ブロックグループホーム研修会に参加し、担当グループが用意した研修内容を勉強したり、意見交換・情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本年度新規利用者は2名。新規利用者を受け入れる場合は、ご家族・ケアマネジャー・利用されていたサービス事業所より情報を得る事で入所時より不安なく生活して頂けるようにケアの統一を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時に困っておられる事や不安な事を聞いて、できるだけ解消できるように支援の提案を行い信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の段階で、本人及びご家族が一番必要としている事をスタッフが共有しながら支援し、必要なら以前利用されていたデイサービスを訪問したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力や身体機能に応じ、洗濯物たたみ、食器お盆拭き、野菜の下処理などできる事をしてもらう事により共同生活の一員として支援し合う関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、帰省協力して頂きながら、ご家族との絆を保ちつつ、全員での外出や行事の時は、ご家族にも声掛けして参加協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	川原地区のサロンがなくなり、近隣のサロンに毎月参加している。定期的とは、いかないが出身地や馴染みの地域への訪問やドライブに出かける事により喜びが見えている。	入居者にとって馴染みの場所は、やはり自宅であることからふるさと訪問を実施しているが、全員への支援には至っていない。ホーム農園で収穫した野菜を見て調理や保存方法を口にされるなど、台所で腕を振るっておられた女性入居者ならではの言葉である。また、ホームの裏の栗山を見て、家を思い出される方もおられる。職員の方言のアクセントも入居者に耳慣れたものであり、安心するところとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の意気投合も見られる反面トラブルが起きることもある。その為に個別ケアを重視して、ご本人のやりたい事を見出したり希望される所に出掛けたり全員で楽しめるゲームなどを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退去されてもご家族と連絡をとり、利用者の面会を行っている。また、ご家族より相談があれば相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、本人の思いや希望を聞き、出来るだけ思いに沿った支援を行っている。しかし、理解が低下されている利用者の思いを聞くことが困難な場合は、その方の立場に立った支援に心掛けている。	職員は日々の暮らしの中で思いや意向を把握し、支援に繋げることができるよう努めている。「どうして欲しい！」という希望はそれぞれが持っておられるが、伝えることが困難な入居者もおられる。職員は表情から汲み取ったり、こうではなからうか！と察しながら、少しでも本人の希望に近づけるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及びご家族に聞いたり、担当ケアマネジャーに聞いて情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活のなかで、利用者の暮らしが安定しており、スタッフも心身状態等の把握が出来る為に、本人の有する機能に応じた支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス時に全員のアセスメントを行っている。また、更新時においては、ご家族とスタッフとモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。状態の変化があった場合はケアプランの見直しを行っている。	本人・家族、職員や医師の意見などを活かし、その入居者をわかっていなければ立案出来ない事、その中で何が支援できるかを大切に作成にあたっている。プランの説明については計画作成者や職員も行う場合があり、誤解の無いよう、質問を確認しながら丁寧な説明を心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケア記録に生活の記録を行い、日勤者⇄夜勤者の申し送り簿により情報交換を行っている。また、リスクに繋がると思われる事は申し送りノートに記入したり写真をケア日誌に載せる事で事故防止に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院中の利用者への面会やそのご家族との連絡や要望等で施設が出来る範囲であれば柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの協力を得て、地域に出かけ自然を満喫している。近隣地域のサロンへ参加し、楽しい時間を過ごして頂いている。地域の方と声掛け合うことで、暮らしの豊かさに繋がるような支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の主治医を重視し、ご家族の協力を得ながら受診を行っている。また、スタッフが医療機関へ健康状態や日々の暮らしについて情報を提供している。受診が困難な場合は、訪問診療を依頼して健康管理に努めている。	かかりつけ医は本人及び家族の希望を大切にしており、現在は同意のもと全員が協力医による月1回の訪問診療を受けている。入居者の中には協力医をもととかかりつけ医としてきた方もおり、本人・家族の安心するところとなっている。入居者の日々の健康状態は、毎日ファックスで協力医療機関に報告し、必要に応じて受診を行うことで入居者の健康を支えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェック表及び検温版により、状態の変化がわかるようにしている。異常が見られた時は、主治医に相談し指示を受けたり、母体の看護師に相談、協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、施設より搬送し、本人及びご家族が安心されるように情報を提供する。また、面会を行い利用者の不安をできるだけ最小限になるよう心掛けている。医療機関よりの情報を得て、ご家族とも相談を行い、お互いの関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取りに対しては、医療を必要とする場合は難しいが、老衰の場合は受け入れが可能であり、本人の意思やご家族の考えを十分に検討し支援を行っていく方針がある。本人・ご家族の思いに応える終末期を支援する為に「急変時及び重度化時の対応における、事前意志確認書」を作成している。	重度化や終末期に向けた対応方針については、事前意思確認書を新たに作成し、話し合いが必要になった時点で説明している。ただ、すべての家族にはまだ説明できておらず、年末に予定している家族会の中で伝えたいとしている。重度化した場合の食事支援では、母体特養から嚥下食の提供などの協力が得られている。また、研修については、法人全体での看取りに関する研修に参加したり、地区の連絡協議会に出席した職員より復講が行われている。	管理者は終末期支援について、研修では補えない職員のメンタル面についても支えていきたいとしており、必要なサポートに期待したい。そして本人・家族に最良の時間を提供するホームに努めていかれることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のケアの中でベテラン介護士の指導を受けたり、緊急の場合は、母体看護師や幹部職スタッフの協力を受ける事ができる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体が福祉避難所でもあることから、真空の備蓄食の準備があったり非常食としてインスタント食品を利用者・スタッフとも準備している。8月は夜間想定火災非難訓練を実施、11月は昼間想定火災非難訓練を予定している。16日を災害の日とし、利用者スタッフとも非常食を食べ災害が起こった時の対策を話しながら昼食をとり確認している。	今回の熊本地震を受けて、法人全体で災害マニュアルの改定をしている。新たに地震の項目を設けて、事業継続の視点からの職員の動きを入れた対策にしている。火災避難訓練は、昼夜間を想定して実施している。非常用備蓄としては、3日分の食料や炊き出し用の燃料等を備えており、職員にもそれぞれ三日分の非常食を持たせている。地震後は、16日を災害に思いを馳せる日としている。	災害マニュアルの改訂や16日を災害の日として思いを馳せることなどの取り組みを家族会や運営推進会議で報告を行い、更なる信頼関係や地域の協力体制を強固なものにしていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活のケアの中で個人のプライバシーを尊重する言葉かけを行っているが、耳の遠い利用者に声が大きくなっている。スタッフ同士で注意しあいながら1人ひとりを尊重できるようにこころがけている。	呼称は、苗字又は名前ですんづけで呼んでいる。生活の場面では、親しみのある地元の言葉を使っているが、馴れ合いとかため口にならないようにし、気づいたときはお互いで注意しあっている。個人情報の保護の取り扱い、守秘義務については、4月の全体研修で管理者から話をするとともに、毎年、誓約書を交わし入職、退職時も同様としている。	馴染みの関係からややもすると、声のトーンや職員同士の会話が弾むなど配慮に不足がないか？振り返る機会を持つことも必要と思われる。また、居室へ入る際は、在室の有無に関わらずノックの徹底が求められる。プライバシーの保護については、ボランティアの方にも書面などにより説明されることが必要と思われる。取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや自己決定ができ易いようにわかり易く説明しているが、理解力の低下がある利用者に対しても思いが出やすいように言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を把握して、できるだけその方の希望に沿えるように支援している。(台所の手伝い、プランターの手入れ、母体への散歩など)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面を行い、一緒に身だしなみを整えている。外出や行事の時は、洋服もおしゃれをして頂いている。普段と違う喜びの笑顔が見られる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握しており、日々の料理の材料に取り入れている。また、野菜の皮むきやお茶碗、お盆拭きをお願いしている。	食事は、地元の食材や農園で獲れたものを活かし入居者の好みに合わせたメニューで提供している。体調に変化がある場合は、食形態や時間など臨機応変にきめ細かな対応ができています。農園での野菜作り、食材の下処理、味見、配膳等入居者はできることで食に関わっている。職員も見守りや介助を行いながら入居者と同じものを摂り、味の感想や午後からの予定を告げるなど会話を楽しみながらの食事風景であった。	『明日葉農園』は開設時から、美味しい旬の野菜を沢山食べて欲しいという家族の思いから多大な協力によって管理されている。野菜高騰の折も、家族・地域の差し入れもありホームでは、変わらぬメニューが食卓に並んでいる。今後も先人の知恵を活かしながら、入居者に楽しい食事支援を継続していきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養については献立のバランスを考えながら利用者の希望をとりいれている。カロリー計算は年1回母体の管理栄養士にお願いして振り返っている。嚥下障害の方の形態にも心がけている。(アイソトニックゼリー、トロミなど)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に唄を歌ったり、口腔体操を行い、食事がスムーズにとれるようにしている。また、食後の口腔ケアのなかで異常の発見に努めている。異常があれば、ご家族に相談して、受診または、往診をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握している。トイレでの自立に向けて、できるだけ本人の機能を引き出すような声掛けを行っている。(排泄用パットも個々にあった物を準備している。)	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導や本人の残存機能を引き出すようにし、自立の継続に努めている。ほとんどの方が、リハビリパンツ、布パンツであるがオムツ使用など身体状況や昼夜に応じて排泄用品を細かに検討している。また、乳製品や食物繊維(牛蒡、夕食の麦飯など)の食材に配慮したり、腹部マッサージなどにより自然排便に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理の中に食物繊維(さつまいも、牛蒡、麦など)を多く取り入れ便秘予防に心がけている。また、乳製品、果物の提供も心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は、毎日実施し入浴予定者は、入浴前にバイタルチェックを行う。本人の希望があれば、毎日でも入浴は可能。1対1の入浴でゆっくりと実施している。入浴剤を使用し、皮膚の乾燥やリラックスした気分に繋げている。	毎日入浴の準備をしており、バイタルチェックで可否を見極め週2~3回の入浴が行われている。職員は1対1でゆっくりとした支援を心がけており、更衣室は電熱器によって冬季でも暖かく安心して入れるようになっている。入浴剤や季節湯(菖蒲・柚子)を取り入れており、訪問当日もたくさん差し入れされた柚子を入居者に紹介しながら「柚子をもらったしもう12月だから、今日は柚子湯ですよ〜！」と、職員自身も季節湯を楽しんでいる光景からホームの日常が伝わってきた。	更衣室に備わった電熱器の設置は家族へも説明することで、安心して繋がったり面会時に入浴についても話が及ぶと思われる。是非家族への報告を望みたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設の建物自体が地中熱を利用しており、居室も自然な空調の為に、昼夜過ごし易い環境である。本人が休みたいときは、いつでも休む事ができる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については、全スタッフが把握しており、臨時薬がある場合でも個々の検温版や申し送り簿に記載し、間違いが起こらないように支援している。また、臨時薬を投与した後は、病状の変化等にもスタッフ全員が確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や特技、思いを日々の生活に活かせるように支援している。テーブル拭きや洗濯物たたみ、収納をお手伝いされている。また、朝食前には、神様参りする事を日課にされている。9時すぎに体操を30分される事も日課となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつでも本人の希望にそえるようにしているが、日々の外出は短時間(個別のドライブ)が主である。また、外出する際はご家族やボランティアの協力を得て行っている。	天気の良い時や外の光景を見て「今日はどこか行かんとな～!？」と、要望される方もあり、可能な限り法人敷地内や短時間のドライブに出かけている。また、職員が用件で外に出る時も、入居者に声をかけできるだけ同乗してもらうなど外出の機会を作っている。その他、地区のサロンや収穫祭等のイベントや行事に出かけ交流を楽しんでおり、家族やボランティアの協力を得た外出も行われている。	今後も家族の面会時に庭先に出たり、敷地内を散策するなど、戸外に出る機会を大切にされることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	遠方のご家族が多い為、殆どの利用者より現金を預かっているが、利用者が重度化され、一緒に買い物に出かける事が困難になっている。日用品の買い物等は、スタッフが代わりに買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ご家族に健康状態や生活の状況及び、お知らせを書いて送付している。また、利用者が書かれた文章や絵をお手紙に同封している。電話は希望時に取り次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からホールまでの空間にお花を飾ったり、植物を置いて利用者の精神面の安定に心がけている。また、馴染みの音楽や録画による「心の歌」を聞いて頂く事により、心豊かに過ごして頂く工夫をしている。	ホールには運動会、法人イベント、収穫祭等の写真がA4の大判で掲示され、入居者や訪れる人たちを楽しくさせている。また、季節を感じられる草花等が飾られ心を和ませている。地中の熱を利用した自然空調は、夏は涼しく冬は暖かく快適なホーム環境となっている。	運営推進会議のメンバーもイベントや外出時の写真の掲示コーナーはよく見て楽しみにされていることが記録より確認された。直近の物を掲示することが更に入居者や来訪者の楽しみに繋がると思われ、担当者を中心に定期的な見直しの機会を持たれる事を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下、ベランダ等に椅子を設置して、いつでも過ごし易い空間を心がけている。さりげない声掛けをしたり寄り添い、本人の気持ちを聞き穏やかな時間を作る工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に自分の馴染みの家具やご家族との思い出の写真を飾ったり、好きなお花を置く事により、居心地よく過ごせるように心がけている。季節ごとに咲く庭の花を生ける事で我が家に居るような気分を味わって頂けるような工夫をしている。	入居時に馴染みの物があればを持ってきて欲しい事を説明し、他の居室を参考までに案内している。広さも十分な部屋にはドレッサーや家具、人形、小物など置かれている。窓からは、栗山等の馴染みの風景が拡がっており、安心にも繋がっている。専任者を中心に日々の掃除や換気が行き届き、居心地の良い空間となっている。	使用していないポータブルトイレについては、クロスをかけるなど職員のひと工夫に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の名札や目印の人形、浴室 トイレなどに表札を掛けてわかり易い言葉で表示している。また、廊下やホールには、危険になるような備品は置かないようにしてリスクの回避を図っている。		